

強剛母趾

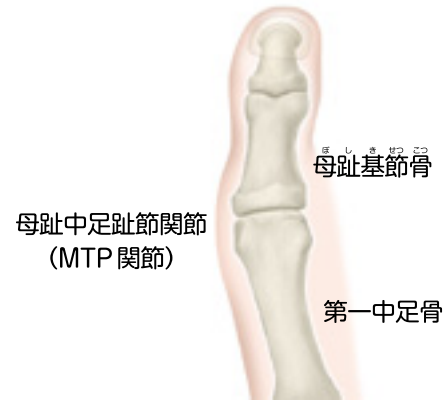
症状

強剛母趾とは

骨と骨のつなぎめが関節で、骨の表面は軟骨に覆われています。軟骨は関節の動きをスムーズに行い、緩衝作用があります。その軟骨がすり減る状態を変形性関節症といいます。この変形性関節症が足の親ゆび（母趾）の付け根の関節、すなわち母趾中足趾節関節（MTP関節）に生じるのが強剛母趾です。

症状

親ゆびの付け根の関節に痛みと腫れが生じます。特に親ゆびを伸展したとき（上に反らせる）に痛みが強くなります。重度になると可動域（動く範囲）が狭くなり、痛みが増します。また背面に硬い隆起物ができ、靴にあたって痛みが生じます。歩行や裸足での立ち座りに支障が出ます。



原因・病態

原因

原因は明らかではありません。繰り返しの小さなけが、骨の形態異常、靴の影響などがあげられます。外反母趾に合併していることもあります。

病態

通常でも母趾 MTP 関節は最大伸展位（最大に上に反らしたところ）で骨頭にストレスがかかっています。なんらかの原因でさらに負荷がかかると、軟骨が傷みます。進行すると骨棘（ほねのとげ）が出て（▼）、軟骨がすり減り、関節裂隙（骨と骨のすきま）がなくなる（←）ため、さらに痛みが強くなり、動きにくくなります。



レントゲン
正常



レントゲン
強剛母趾



側面



3D-CT

診断

●以下の症状が認められた場合、強剛母趾と診断されます。

親ゆびの伸展時の痛みや MTP 関節の腫れ、背側に硬い隆起(▽)を触れる場合は、医療機関を受診しましょう。

強剛母趾の診断は、診察とレントゲン検査で診断されます。その他の母趾 MTP 関節の痛みには、外反母趾や痛風による関節炎がありますので、正確な診断が必要です。



強剛母趾

治療

●治療方法

保存治療

- 局所の安静がまず重要です。痛みが増すことを避けましょう。靴は親ゆびが圧迫されないよう余裕があるもの、指がそりにくくなるよう靴底が硬いものを選びます。
- それでも痛みが改善しない場合は、保存治療（手術をしない治療法）を行います。医療機関で足の型をとり、足底挿板（靴の中敷き）や靴型装具（ロッカーボトム：つま先が上がった靴底）を用いて親ゆびの負荷を減らします。注射で痛みを軽減することもあります。効果は一時的なことが多いです。



足底挿板



靴型装具

手術治療

保存治療でも改善されず比較的に進んだ変形の場合に手術治療を行います。

- 軽度から中等度の場合は、関節縁切除術（カイレクトミー）が行われます。骨棘と傷んだ軟骨の背側部を切除し、動きと痛みを改善します。
- 重度の場合、一般的に関節を固定する手術を行います。年齢や活動性によっては関節の動きを保たせた手術を行うこともあります。



カイレクトミー



関節固定術

どの手術法にも長所と短所があります。専門の医療機関を受診し、医師とよく相談しましょう。